

県高校総体 2011

<第6日>

沖縄タイムス

曜日

興南	16-9	18-7	ザ
▽女子決勝	21-9		
那覇西	17-9	15	陽
	20-6		明

ハンドボール

県高校総合体育大会第6日は1日、各地で6競技を行った。ハンドボール男子は興南が37-18でコザを下し7年連続23度目の優勝。女子は那覇西が37-15で陽明を圧倒し、2年連続7度目の優勝を飾った。

ソフトボール女子決勝は読谷が同点で迎えた六回表に、浦添商業の守備が乱れる間に決勝点を挙げ、4-3で勝利。男子決勝は嘉手納の金城太樹が読谷を完封し、6-0で快勝した。女子読谷、男子嘉手納ともに2連覇。陸上は男子50000以下で瑞慶舎伸哉(宮古)が15分9秒55で優勝し、15000以下で合わせて2冠。女子円盤投げの知念莉子(那覇西)も砲丸投げに続いて2種目を制した。

バドミントンの個人シングルは男子新垣秀治(沖水)、女子田場愛佳(コザ)が制し、ともに団体、個人ダブルスと合わせて3冠に輝いた。ヨットのFJ級男子は上原亮・田場優平組知念、シーホッパー級SR男子は有銘兼志(球陽)、女子は大湾ひかり(昭葉付)が優勝した。テニスは男女個人戦シングル、ダブルスの決勝進出者が出そろった。第7日は2日、テニスなど3競技を行う。

力丸

ハンド興南V7

男子決勝・興南-コザ 後半、左サイドから27点目のシュートを決める興南の東江雄斗=沖縄市民体育館 (古謝克公撮影)



エース不調でも大差

スタートではもたついた興南だが、チーム一丸、ダブルスコアの圧勝で7連覇を果たした。

展開も守り抜くことで相手ミスを誘い、リをつないだことに笑みを浮かべた。ズムを取り戻した。15分すぎの下地賢志の連続得点などで加点し、7点リードで折り返す。後半は、東江がオセタと満足げ。全国に向けて「(東江のワンマンチームじゃないところを見せた

ハイライト

スタートではもたついた興南だが、チーム一丸、ダブルスコアの圧勝で7連覇を果たした。開始前から盛り上がる総体決勝の独特の雰囲気にも動きが硬い。興南はエース東江雄斗が、厳しいマークと大会中のけがの影響で、序盤から脱水症状気味と動きが乏しい。周囲にパスを出して得点につなげるが、前半10分すぎまではシーソーゲーム。しかし九州王者は、思い通りにならないに感謝し「勝って正直ほっとした」と連覇

発揮、コザを引き離し、19点差をつけた。東江は「自分ができない分、周りが頑張ってくれた。チーム一丸で勝てた」と仲間

昨年、美ら島総体は、準々決勝敗退の悔しさを味わった。東江主将は「屈辱を晴らすためには、全国で優勝する」と力強く誓った。

(安里真己)

守って女子那覇西

決勝戦の緊張から接戦になった序盤を、那覇西は守りを徹底することで立て直した。17-9で折り返すと、守りからの速攻が決まり、後半は自在に得点を重ね、37-15の大差で2連覇を飾った。

15失点に抑えた守備に下地保監督は「重点的に取り組んできた守りが機能した」と胸を張った。大型セッターが、けがで不在など万全ではなかったが、危ない。2年生セッターの由浅日香里は「自分が守らなければ責任を感じた。ちゃんと守れて良かった」と満足感を漂わせた。

前半8分からの3連続得点で流れを引き寄せた下地聖良は「負けた

速攻自在に連覇

下地監督は「課題のセット力をもっとつけた。やってみなければ分からないが、全国に十分立ち向かえると思う」と先を見据えた。

女子決勝・那覇西-陽明 前半、8点目のシュートを決める那覇西の上間莉奈

